

〔エダマメの出荷期間拡大のための栽培技術の開発〕
11 月収穫のための露地トンネル抑制栽培における播種期の検討

馬場 隆
(江戸川分場)

【要 約】 露地トンネル抑制栽培では、9月上旬に「とびきり」を播種すると11月下旬に収穫できる。9月下旬播種では、莢数、莢重、上物率が著しく低下し、外果皮もやや厚くなる。

【目 的】

抑制栽培に適する品種の選定を行ってきたが、労力とコストの軽減および収量と品質の確保が課題である。このため前年までの結果から、抑制栽培に適し、うどんこ病にもある程度強い品種を用いて播種期の検討を行う。

【方 法】

分場の露地圃場に白マルチを張り、条間 45 cm、株間 15 cm の 2 条とした。「狩勝 3 号、玉すだれ、とびきり」を 2018 年 9 月 7 日、13 日、19 日に 1 粒播種し、サンサンネット（1 mm 目合い）を展張した。10 月 25 日にサンサンネットを撤去すると同時にベタロン DT650 とユーラックカンキ 230-4 号を展張した。施肥は全量基肥で 10 a 当たり N、P₂O₅、K₂O を 5 kg、12 kg、5 kg 施用した。また、対照として、2016 年の 7 月 23 日播種の「狩勝 3 号、玉すだれ」を記載した。

【成果の概要】

1. 栽培期間中の平均気温は過去 5 年間と比べ 0.9℃ 高く推移した（図 1）。
2. 最も気温が低い 11 月 23 日前後のトンネル内の気温は、露地と比べ、最高気温は 4～8℃ 高く推移したが、最低気温に差はなかった（図 2）。
3. 9 月 7 日播種では 11 月下旬に、13 日播種と 19 日播種では 12 月上旬に収穫期となった。草丈、主茎長、地上部重、莢数、莢重は 9 月 7 日播種に比べ、13 日播種では大きな差はみられないが、19 日播種ではかなり小さくなり、外果皮もやや厚くなった 3・4 粒莢数は播種日が遅くなると減少した（表 1）。
4. 2016 年 7 月 23 日播種の「狩勝 3 号、玉すだれ」と比べると、生育日数はかなり短くなった。草丈、主茎長、地上部重、莢重、上物率は小さくなった。特に 3・4 粒莢は半分以下である。
5. 今回、供試した 3 品種では「とびきり」は莢重と上物率が多く、草丈と主茎長が短く、最も優れていた。

【残された課題・成果の活用・留意点】

「とびきり」は莢重と上物率で優れ、9月上旬播種 11 月下旬収穫のトンネル抑制栽培に適している。

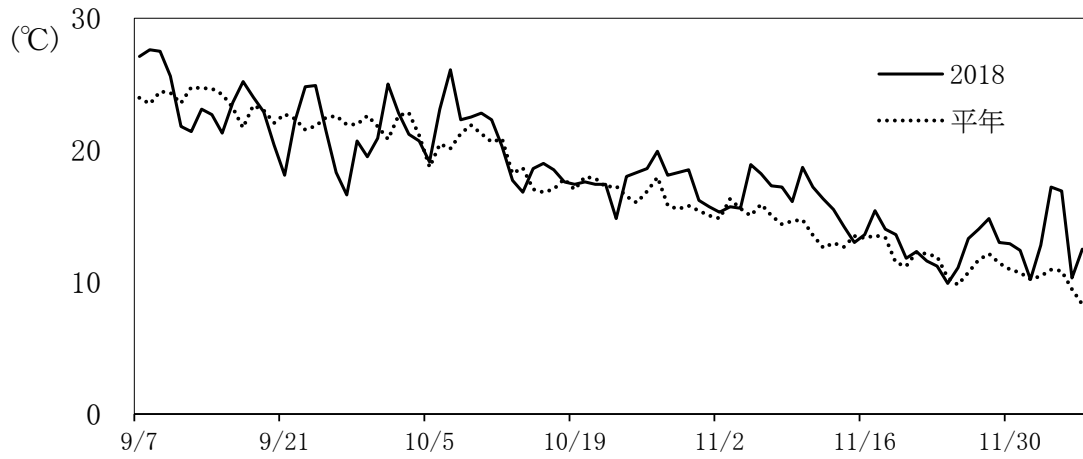


図1 栽培期間中の平均気温の推移(江戸川臨海)

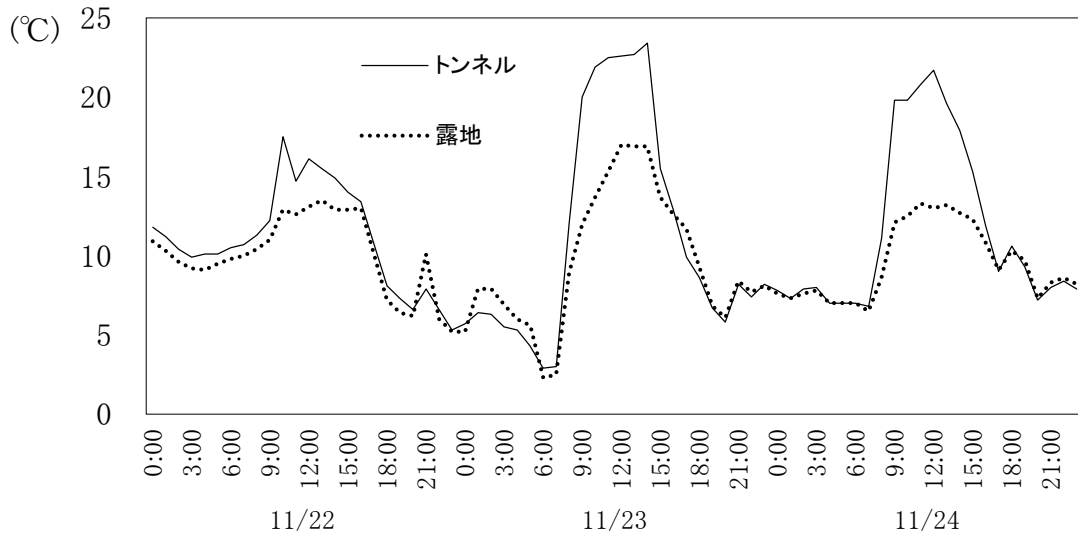


図2 トンネル内と外気温の変化

表1 エダマメ抑制裁培における播種日の影響

品種名	播種日	収穫日	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	地上部 重(g)	3・4粒 莢数	2粒 莢数	1粒 莢数	莢重 (g/株)	上物率 ^a (%)	莢厚 (mm)	外果皮 の厚さ
狩勝3号	9/7	11/27	55.6	27.1	135.2	5.6	17.8	10.7	75.8	68.5	8.8	
	9/13	12/3	56.6	26.4	150.2	5.9	19.0	13.0	78.4	65.7	8.5	
	9/19	12/7	39.6	18.8	59.8	1.1	5.4	2.6	23.4	71.4	8.5	やや厚
玉すだれ	9/7	11/27	54.0	23.6	121.4	5.2	12.0	7.5	57.0	69.7	8.9	
	9/13	12/3	64.0	29.1	138.8	4.2	12.7	8.7	56.0	66.0	8.6	
	9/19	12/7	39.4	17.5	57.4	0.7	3.0	2.5	15.8	59.7	8.6	やや厚
とびきり	9/7	11/27	45.7	23.0	139.1	10.0	17.4	9.1	99.0	75.1	8.5	
	9/13	12/3	49.9	25.3	142.9	7.1	16.8	9.5	86.3	71.6	8.6	
	9/19	12/7	39.4	20.8	80.3	3.4	5.7	4.4	41.8	67.4	9.0	やや厚
対 ^b 狩勝3号	7/23	11/4	78.5	38.9	156.8	13.8	21.1	3.9	95.2	89.9	9.6	
照 玉すだれ	7/23	11/2	74.1	31.6	143.9	13.3	15.2	3.7	80.3	88.6	9.7	

a) 上物率は2粒以上莢の割合

b) 対照は2016年